

微分方程式特論

2. 任意の周期 $p = 2L$ をもつ関数・
偶関数および奇関数

1. 任意の周期 $p = 2L$ をもつ関数

第1回目と違って、一般任意の周期 $p = 2L$ をもつ関数を扱う
 周期 $p = 2\pi$ から周期 $p = 2L$ への移行は簡単で
 座標軸の尺度の伸縮で解決できる

周期 $p = 2L$ の関数がフーリエ級数をもつならば、
 この級数は、

$$f(x) = a_0 + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \cos \frac{n\pi}{L}x + b_n \sin \frac{n\pi}{L}x \right)$$

となり、一般に **三角級数** ともいう。

オイラーの公式

$f(x)$ のフーリエ級数はオイラーの公式

$$a_0 = \frac{1}{2L} \int_{-L}^L f(x) dx,$$

$$a_n = \frac{1}{L} \int_{-L}^L f(x) \cos \frac{n\pi x}{L} dx, \quad (n = 1, 2, \dots)$$

$$b_n = \frac{1}{L} \int_{-L}^L f(x) \sin \frac{n\pi x}{L} dx, \quad (n = 1, 2, \dots)$$

で与えられる.

[証明] 前回の結果 (周期 2π の場合) に帰着させる。

$v = \pi x/L$ とおき

$$g(v) = f(x) = f(Lv/\pi)$$

と定めると, $g(v)$ は周期 2π の周期関数である.

証明続き

したがって、前回の結果より周期 2π の周期関数 $g(v)$ はつぎのようなフーリエ級数をもつ

$$g(v) = a_0 + \sum_{n=0}^{\infty} (a_n \cos nv + b_n \sin nv)$$

フーリエ係数は次のように決まる

$$\begin{aligned} a_0 &= \frac{1}{2\pi} \int_{-\pi}^{\pi} g(v) dv, \\ a_n &= \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} g(v) \cos nv dv, \quad n = 1, 2, \dots \\ b_n &= \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} g(v) \sin nv dv, \quad n = 1, 2, \dots \end{aligned}$$

ここで $v = \pi x/L$ と変数変換すると $g(v) = f(x)$ であり,

$$dv = \frac{\pi}{L} dx$$

となって積分区間は $v: -\pi \rightarrow \pi$ が $x: -L \rightarrow L$ になるので前ページの結果を得る. □

例

注意 積分区間について

フーリエ係数の積分区間は長さ $p = 2L$ の任意の区間でおきかえられ, 区間 $0 \leq x \leq 2L$ で積分しでもよい

周期的方形波 つぎの関数のフーリエ級数を求めよ

$$f(x) = \begin{cases} 0 & (-2 < x < -1), \\ k & (-1 < x < 1), \\ 0 & (1 < x < 2) \end{cases} \quad (p = 4, L = 2)$$

Euler の公式を用いて

$$a_0 = \frac{1}{4} \int_{-2}^2 f(x) dx = \frac{1}{4} \int_{-1}^1 k dx = \frac{k}{2},$$

$$a_n = \frac{1}{2} \int_{-2}^2 f(x) \cos \frac{n\pi}{2} x dx = \frac{1}{2} \int_{-1}^1 k \cos \frac{n\pi}{2} x dx = \frac{2k}{n\pi} \sin \frac{n\pi}{2}.$$

n が偶数の時は $a_n = 0$, n が奇数の時は

$$a_{4m+1} = \frac{2k}{(4m+1)\pi}, \quad a_{4m-1} = -\frac{2k}{(4m-1)\pi}.$$

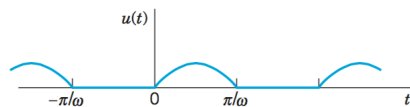
$f(x)$ は偶関数なので $b_n = 0$
したがって、

$$f(x) = \frac{k}{2} + \frac{2k}{\pi} \left(\cos \frac{\pi}{2} x - \frac{1}{3} \cos \frac{3\pi}{2} x + \frac{1}{5} \cos \frac{5\pi}{2} x - \cdots \right)$$

半波整流器 正弦波電圧 $E \sin \omega t$ が半波整流器を通ると、波の負の部分が除去される。

ここで t は時間である

この関数を式で表すと



$$v(t) = \begin{cases} 0 & (-L < t < 0), \\ E \sin \omega t & (0 < t < L), \end{cases} \quad (p = 2L = \frac{2\pi}{\omega}, L = \frac{\pi}{\omega})$$

Fourier 級数を求める

Fourier 級数

$-L < t < 0$ で $u = 0$ であるので

$$a_0 = \frac{\omega}{2\pi} \int_0^{\pi/\omega} E \sin \omega t \, dt = \frac{E}{\pi}.$$

$n > 0$ のときは

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{\omega}{\pi} \int_0^{\pi/\omega} E \sin \omega t \cos n\omega t \, dt \\ &= \frac{\omega E}{2\pi} \int_0^{\pi/\omega} [\sin(1+n)\omega t + \sin(1-n)\omega t] \, dt \\ &= \frac{E}{2\pi} \left[\frac{-\cos(1+n)\omega t}{1+n} + \frac{-\cos(1-n)\omega t}{1-n} \right]_{t=0}^{t=\pi/\omega} \\ &= \begin{cases} 0 & n : \text{奇数} \\ \frac{E}{2\pi} \left(\frac{2}{1+n} + \frac{2}{1-n} \right) = -\frac{2E}{(n-1)(n+1)\pi} & n : \text{偶数} \end{cases} \end{aligned}$$

他方 b_n については

-7-

$$b_n = \frac{\omega}{\pi} \int_0^{\pi/\omega} E \sin \omega t \sin n\omega t dt = \begin{cases} 0 & n > 1 \\ \frac{\omega}{\pi} \int_0^{\pi/\omega} E \sin^2 \omega t dt = \frac{E}{2} & n = 1 \end{cases}$$

となるので

$$S(t) = \frac{E}{\pi} + \frac{E}{2} \sin \omega t - \frac{2E}{\pi} \left(\frac{1}{1 \cdot 3} \cos 2\omega t + \frac{1}{3 \cdot 5} \cos 4\omega t + \cdots \right)$$

偶関数および奇関数, 半区間展開

p.4-5 での例 1 の関数は偶関数であり, フーリエ級数は余弦項だけをもち正弦項は存在しない. これが偶関数の典型である.

偶関数と奇関数

関数 $y = g(x)$ がすべての x に対して,

$$g(-x) = g(x)$$

を満たすとき, $g(x)$ を偶関数という. そのグラフは y -軸について対称である

関数 $y = h(x)$ がすべての x に対して,

$$h(-x) = -h(x)$$

を満たすとき, $h(x)$ を奇関数という.

例

関数 $\cos nx$ は偶関数, $\sin nx$ は奇関数

1. $g(x)$ が偶関数ならば

$$\int_{-L}^L g(x) dx = 2 \int_0^L g(x) dx$$

2. $h(x)$ が奇関数ならば

$$\int_{-L}^L h(x) dx = 0$$

3. 偶関数 \times 奇関数 = 奇関数, 偶関数 \times 偶関数 = 偶関数,
奇関数 \times 奇関数 = 偶関数.

この命題より, $f(x)$ が偶関数のとき, Euler の公式の被積分関数 $f(x) \sin(n\pi x/L)$ は奇関数であり $b_n = 0$.

同様に $f(x)$ が奇関数のとき $f(x) \cos(n\pi x/L)$ は奇関数であり, $a_n = 0$.

定理 [フーリエ余弦級数, フーリエ正弦級数]

周期 $2L$ の偶関数のフーリエ級数は**フーリエ余弦級数**である:

$$f(x) = a_0 + \sum_{n=1}^{\infty} a_n \cos \frac{n\pi}{L} x$$

係数は

$$a_0 = \frac{1}{2L} \int_{-L}^L f(x) dx, \quad a_n = \frac{1}{L} \int_{-L}^L f(x) \cos \frac{n\pi x}{L} dx, \quad (n = 1, 2, \dots)$$

周期 $2L$ の奇関数のフーリエ級数は**フーリエ正弦級数**である:

$$f(x) = \sum_{n=1}^{\infty} b_n \sin \frac{n\pi}{L} x$$

係数は

$$b_n = \frac{1}{L} \int_{-L}^L f(x) \sin \frac{n\pi x}{L} dx, \quad (n = 1, 2, \dots)$$

周期 2π のとき

周期 2π の偶関数に対して定理を用いると

$$f(x) = a_0 + \sum_{n=1}^{\infty} a_n \cos nx$$

係数は

$$a_0 = \frac{1}{2\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) dx, \quad a_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cos nx dx, \quad (n = 1, 2, \dots)$$

周期 2π の奇関数に対して

$$f(x) = \sum_{n=1}^{\infty} b_n \sin nx$$

係数は

$$b_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin nx dx, \quad (n = 1, 2, \dots)$$

定理 [線型性]

- ・ 和 $f_1 + f_2$ のフーリエ係数は、 f_1 と f_2 のフーリエ係数の和である.
- ・ c を定数とするとき、 cf のフーリエ係数は f のフーリエ係数の c 倍である

例 1 方形パルス 周期 2π の関数

$$f^*(x) = \begin{cases} 2k & (-\pi < x < 0), \\ 0 & (0 < x < \pi) \end{cases}$$

は、前回計算した **方形波**

$$f(x) = \begin{cases} k & (-\pi < x < 0), \\ -k & (0 < x < \pi) \end{cases}$$

と定数関数 k との和である: $f^* = f + k$.

$$f(x) = \frac{4k}{\pi} \left(\sin x + \frac{1}{3} \sin 3x + \frac{1}{5} \sin 5x + \cdots \right)$$

だったので

$$f^*(x) = k + \frac{4k}{\pi} \left(\sin x + \frac{1}{3} \sin 3x + \frac{1}{5} \sin 5x + \cdots \right)$$

$$f(x) = x + \pi \quad (-\pi < x < \pi)$$

[解] つぎのように書ける:

$$f = f_1 + f_2 \quad (\text{ただし, } f_1 = x, f_2 = \pi)$$

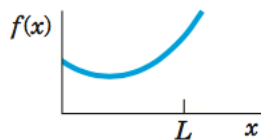
f_2 のフーリエ級数は、最初の項が π でそれ以外は 0 である.

f_1 のフーリエ級数は、前回の問題 8(0) で示したように

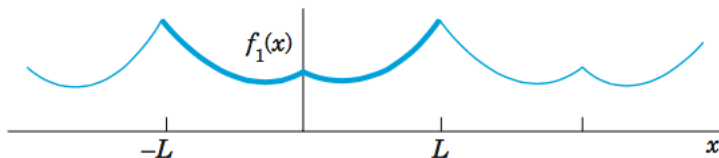
$$f_1(x) = 2 \sin x - \frac{2}{2} \sin 2x + \frac{2}{3} \sin 3x - \frac{2}{4} \sin 4x + \frac{2}{5} \sin 5x - \cdots$$

したがって、定理から f のフーリエ級数は

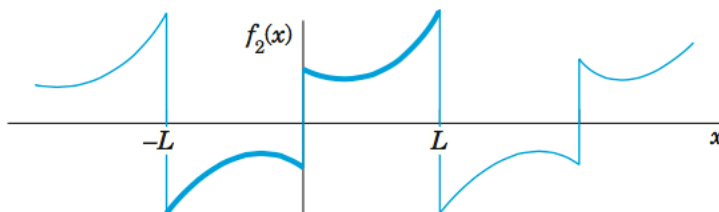
$$f(x) = \pi + 2 \left(\sin x - \frac{1}{2} \sin 2x + \frac{1}{3} \sin 3x - \frac{1}{4} \sin 4x + \frac{1}{5} \sin 5x - \cdots \right)$$



(0) The given function $f(x)$



(a) $f(x)$ continued as an **even** periodic function of period $2L$



(b) $f(x)$ continued as an **odd** periodic function of period $2L$

無限区間への延長

前ページのようにある区間 $0 \leq x \leq L$ だけで与えられている関数 f に対して、フーリエ級数を与えたい.

例としては、長さ L の弦の振動、長さ L の金属棒の温度変化などがあり、いずれも偏微分方程式の解として求めることができる

有限区間で定義された関数を **周期函数として延長** すればよい

延長の仕方としては周期 $2L$ の偶周期関数に延長するか、奇周期関数に延長すると、単純に周期 L の周期関数に延長するよりも計算が楽になる.

半区間展開

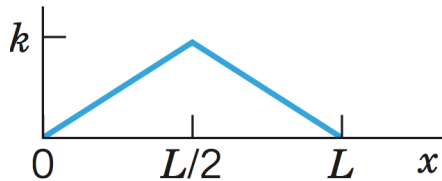
区間 $0 \leq x \leq L$ で与えられている関数 f を、まず偶関数として y に関して対称に $-L \leq x \leq L$ に延長したあと周期 $2L$ の偶周期関数 f_1 に伸した関数の Fourier 級数を f の **偶周期的展開** という

奇関数として原点に関して対称に $-L \leq x \leq L$ に延長したあと周期 $2L$ の奇周期関数 f_1 に伸した関数の Fourier 級数を f の **奇周期的展開** という

例 3. 3角パルスとその半区間展開

次の関数の偶周期展開と奇周期展開を求めよ

$$f(x) = \begin{cases} \frac{2k}{L}x & (0 < x < \frac{L}{2}), \\ \frac{2k}{L}(L-x) & (\frac{L}{2} < x < L) \end{cases}$$



1) 偶周期的拡張

$$a_0 = \frac{1}{L} \left[\frac{2k}{L} \int_0^{L/2} x \, dx + \frac{2k}{L} \int_{L/2}^L (L-x) \, dx \right] = \frac{k}{2}$$

$$a_n = \frac{2}{L} \left[\frac{2k}{L} \int_0^{L/2} x \cos \frac{n\pi}{L} x \, dx + \frac{2k}{L} \int_{L/2}^L (L-x) \cos \frac{n\pi}{L} x \, dx \right], \quad (n = 1, 2, \dots)$$

a_n の最初の積分を部分積分で行うと

$$\begin{aligned} \int_0^{L/2} x \cos \frac{n\pi}{L} x \, dx &= \frac{Lx}{n\pi} \sin \frac{n\pi}{L} x \Big|_0^{L/2} - \frac{L}{n\pi} \int_0^{L/2} \sin \frac{n\pi}{L} x \, dx \\ &= \frac{L^2}{2n\pi} \sin \frac{n\pi}{2} + \frac{L^2}{n^2\pi^2} \left(\cos \frac{n\pi}{2} - 1 \right) \end{aligned}$$

a_n の第2項の積分を部分積分で行うと

$$\begin{aligned}\int_{L/2}^L (L-x) \cos \frac{n\pi}{L} x \, dx &= \frac{L}{n\pi} (L-x) \sin \frac{n\pi}{L} x \Big|_{L/2}^L + \frac{L}{n\pi} \int_{L/2}^L \sin \frac{n\pi}{L} x \, dx \\ &= 0 - \frac{L}{n\pi} \left(L - \frac{L}{2} \right) \sin \frac{n\pi}{2} - \frac{L^2}{n^2 \pi^2} \left(\cos n\pi - \cos \frac{n\pi}{2} \right)\end{aligned}$$

となる. よって

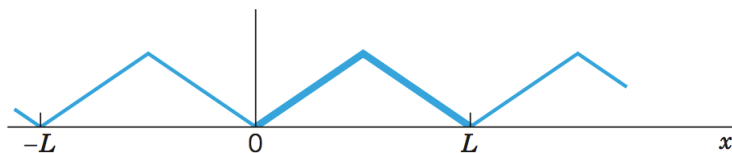
$$a_n = \frac{4k}{n^2 \pi^2} \left(2 \cos \frac{n\pi}{2} - \cos n\pi - 1 \right)$$

具体的に書くと, $n \neq 2 + 4k$ のとき $a_n = 0$ かつ

$$a_2 = -\frac{16k}{2^2 \pi^2}, \quad a_6 = -\frac{16k}{6^2 \pi^2}, \quad a_{10} = -\frac{16k}{10^2 \pi^2}, \dots$$

したがって偶周期展開は

$$f(x) = \frac{k}{2} - \frac{16k}{\pi^2} \left(\frac{1}{2^2} \cos \frac{\pi}{L} x + \frac{1}{6^2} \cos \frac{6\pi}{L} x + \frac{1}{10^2} \cos \frac{10\pi}{L} x + \dots \right)$$



2) 奇周期的拡張

偶周期展開と同様にして

$$b_n = \frac{8k}{n^2\pi^2} \sin \frac{n\pi}{2}$$

したがって奇周期展開は

$$f(x) = \frac{8k}{\pi^2} \left(\frac{1}{1^2} \sin \frac{\pi}{L}x - \frac{1}{3^2} \sin \frac{3\pi}{L}x + \frac{1}{5^2} \sin \frac{5\pi}{L}x - \cdots \right)$$

